

名古屋城と熱田台地を結ぶ堀川を舞台にした現代アートイベント

streaming heritage 2021 autumn

「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」

参加アーティストを発表します！

なごや日本博事業実行委員会は、2021年11月に名古屋台地、熱田台地の縁(へり)となる、名古屋城から熱田の堀川沿いを舞台に開催する新たな現代アート、メディア・アートのイベント streaming heritage 2021 autumn を開催します。愛知県で唯一「令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」に採択された事業です。「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」の参加アーティストとイベントを発表します。



■ 参加アーティスト

市原えつこ

篠田千明

softpad

中山晃子

フォルマント兄弟

堀尾寛太

■ スペシャルトーク

中島那奈子

「能から Trio A へ」

〈パフォーマンス〉

高林白牛ロニ

寺田みさこ

■ パフォーマンス・トーク

11月12日(金)・13日(土)

篠田千明パフォーマンス

11月17日(水)

中島那奈子

名古屋能楽堂スペシャルトーク

*この日の展示はありません

11月19日(金)

中山晃子パフォーマンス

11月20日(土)

堀尾寛太パフォーマンス

11月20日(土)

リレートーク「注ぐ/注がれる」

11月27日(土)

フォルマント兄弟パフォーマンス

*雨天延期の場合28日(日)に開催

開催概要

streaming heritage 2021 autumn

ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

会期：2021年11月12日(金)～28日(日) *原則期間中の金・土・日・祝に開催

会場：名古屋城エリア(名古屋能楽堂・四間道)、納屋橋エリア、熱田・宮の渡しエリア

主催：なごや日本博事業実行委員会

[構成団体] 名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、公益財団法人名古屋まちづくり公社、
名古屋商工会議所、中日新聞社

助成：令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(文化庁)

企画体制：[ディレクター] 秋庭史典、江坂恵里子、河村陽介、伏木 啓、山田 亘

[メインビジュアル] 服部一成

Webサイト：<https://streamingheritage.jp>

媒体をお持ちの方は、情報の掲載や取材をご検討いただけますよう宜しくお願いします。

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期や実施内容等が変更となる場合があります。最新の情報は公式WebサイトやSNSをご確認ください。

ステートメント

名古屋台地と熱田台地のへりには、文化資源や観光資源がたくさんあります。名古屋城から納屋橋を経て宮の渡し、さらには名古屋港まで。これらの資源をひと続きに結んでいるのが堀川の流れstreamです。そこに現代アートが光をあて、名古屋の歴史・文化遺産heritageをリアルタイムに再生streamingする。それがストーリーミング・ヘリテージの試みです。この流れは東海道では鳴海・有松、名古屋城を起点に電車でたどれば陶磁器の産地瀬戸にまで至ります。

他方で、ものづくり王国名古屋、同じ台地と海のあいだに根づいたデジタルメディア文化の流れ—名古屋城・白鳥公園・名古屋港を会場とした世界デザイン博に始まり、名古屋国際ビエンナーレ（アーテック）、artport / MEDIASELECT、電子芸術国際会議、世界グラフィックデザイン会議、ユネスコ創造都市への加盟と続く—の再生でもあります。

アーティストによるインスタレーション、識者を招いて行うトーク、最先端技術を用いたパフォーマンスなどを通し、歴史と現在をインタラクトさせ、名古屋独自の文化芸術の魅力を世界に向けて発信する。それにより、社会経済活動の再活性化へのきっかけにつながることを目指します。

今回は展示に加え、4件のパフォーマンスと1件のトーク+パフォーマンスが行われます。それらを通し、人と世界にとって身体というメディアがもつ意味を見つめ直すとともに、それらが名古屋の歴史・文化遺産をどう読み替えていくのかを楽しんでいただけたらと考えています。また名古屋のメディア文化の担い手たちによる「リレートーク」もあります。お楽しみに。

企画背景

【メディア=コンシャス／メディアへの意識】

ストーリーミング・ヘリテージ（遺産再生）。その背景にあるのが、「メディア=コンシャス」という考え方です。メディアとは媒介、すなわち「何かと何かをつなぐもの」ですが、そうしたメディアを意識することが、「メディア=コンシャス」です。ではなぜそれが重要なのでしょうか？

【堀川こそメディアである】

それは、堀川こそ、名古屋城と港をつなぐメディアであり、このメディアこそ、名古屋というまちの原点だからです。堀川を意識することが、名古屋の歴史とその魅力を再生する第一歩になります。

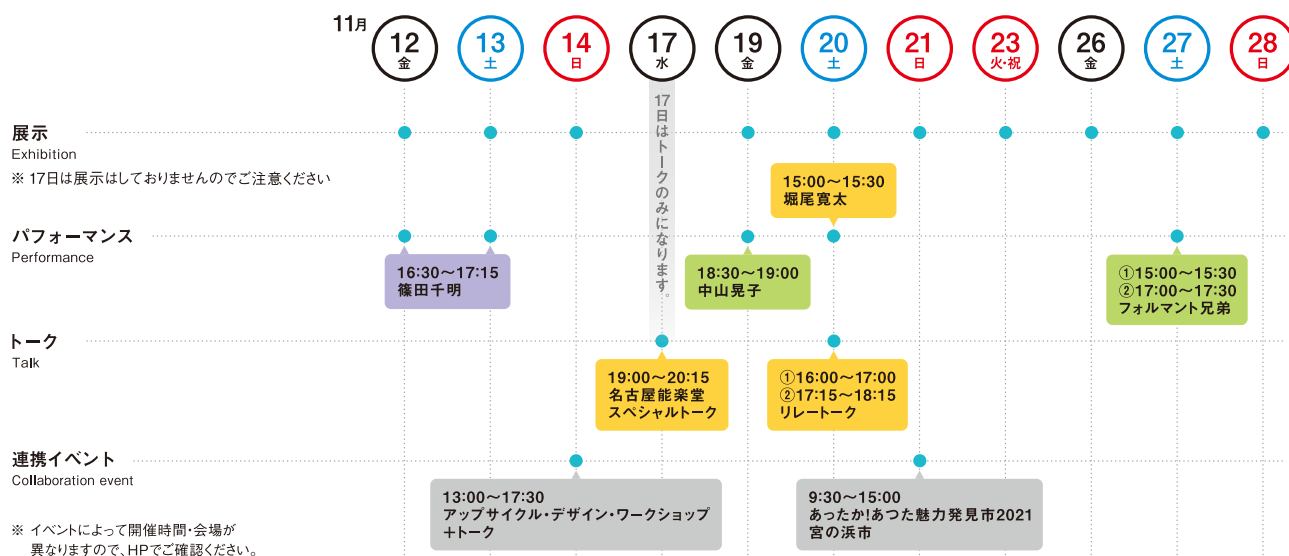
【アートによる再生】

またここに、なぜアートなのか？という問いへの答えもあります。なぜなら、アートは常に、メディアとの距離に自覚的だからです。わたしたちの生活に浸透し見えなくなっているさまざまなメディアを意識させ、それを感覚できるものにする。それこそが、メディア=コンシャスなアートのひとつの役割なのです。

【もうひとつの遺産再生=メディア・コンシャスなアーカイブの構築へ】

ストーリーミング・ヘリテージでは、名古屋城と港のあいだに生まれたもうひとつの遺産、すなわちメディア・デザインとメディア・アートの遺産の再生も目指します。1989年の世界デザイン博以降現在まで続くその歴史をアーカイブ化し、ものづくりのまちに根づいたデザインとアートの流れを再生します。

スケジュール



参加アーティスト

◆名古屋城エリア (名古屋能楽堂・四間道)



市原えつこ

1988年愛知県生まれ。メディア・アーティスト、妄想インベーター。早稲田大学文化構想学部表象メディア論系卒業。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作する。第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞、アルス・エレクトロニカで栄誉賞を受賞。近年の展覧会として、「デジタル・シャーマニズムー日本の吊いと祝祭」(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2016-17)、「Ars Electronica Festival」、「文化庁メディア芸術祭」など。2025年大阪・関西万博日本館の基本構想策定クリエイター。

〈展示〉

会場：伊藤家住宅



softpad

京都を中心に活動するアート/デザインユニット。現在のクリエイション・メンバーは粟津一郎、上芝智裕、奥村輝康、竹内創、外山央、泊博雅、南琢也。インスタレーション、パフォーマンス、サウンド、デザイン分野などジャンルを超えながらそれぞれのメディアの境界線と接点を探る表現活動を行っている。主な展覧会に「物質性 - 非物質性 デザイン&イノベーション」(京都 ddd ギャラリー、2016)、「VOICE AND SOUND WAVES」(LE26BY Galerie Félix Frachon、ブリュッセル・ベルギー、2019)など。

〈展示〉

会場：伊藤家住宅

◆納屋橋エリア



Photo: Haruka Akagi

中山晃子

1988年生まれ。画家。様々な素材を反応させることで、絶えず変容していく《Alive Painting》シリーズや、その排液を濾過させるプロセスを可視化し定着させる《Still Life》シリーズなど、パフォーマンス的な要素の強い絵画を制作。近年では「TEDxHaneda」(東京、2015)、「Ars Electronica Fes」(オーストリア、2019)、「Biennale Nemo」(パリ、2018)、「LAB30 Media Art Festival」(アウグスブルグ、2018)、「MUTEK モントリオール」(2019)、「Tokyo 2020 オリンピック」閉会式等に出演。

〈展示〉

会場：納屋橋

〈パフォーマンス〉

11月19日(金) 18:30~19:00

会場：納屋橋シャムズガーデン

◆納屋橋エリア



フォルマント兄弟

「フォルマント兄弟」は、三輪真弘（兄）と佐近田展康（弟）という父親違いの異母兄弟によって2000年に結成された作曲・思索のユニット。テクノロジーと芸術の今日的問題を《声》を機軸にしながら哲学的、音楽的、技術的に探求し、21世紀の《歌》を機械に歌わせることを目指す。人工音声を人間の手で演奏する『兄弟deビザ注文』『Neo都々逸』『夢のワルツ』など多数の作品を発表。『フレディの墓／インターナショナル』ではPrix Ars Electronica 2009入賞。

〈パフォーマンス〉

日時：11月27日（土） ①15:00～15:30 / ②17:00～17:30

会場：納屋橋 堀川船上 *雨天延期の場合28日（日）に開催

◆熱田・宮の渡しエリア



Photo: Ryo Oguchi

篠田千明

1982年東京生まれ。演劇作家、演出家。2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。劇の成り立ちそのものを問う『四つの機劇』『非劇』や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園『ZOO』、その場に来た人が歩くことで革命をシュミレーションする『道をわたる』などを製作。2018年「Bangkok Biennial」で『超常現象館』を主催。2019年台北でADAM artist lab、「マニラWSKフェスティバル」Music Hacker's lab参加。

〈展示〉

会場：丹羽家住宅

*展示は11/19（金）以降に
なります。

〈パフォーマンス〉

日時：11月12日（金）・13日（土） 16:30～17:15

会場：宮の渡し公園（予定）

*最新の情報は公式ウェブサイトやSNSをご確認ください。



堀尾寛太

1978年広島県生まれ。アーティスト、エンジニア。音や光、磁力、位置などのエネルギーと物理的な動きを結びつけることをベースに、日用品や自作の装置を使ってその場で自律的に発生する現象を作るライブパフォーマンスやインスタレーション作品を発表。また、触覚と振動に基づく電子楽器やインタフェースの開発・製作を行っている。主な展覧会に「CTM Festival 2019」（クストラムクロイツベルグ/ベタニエン、ベルリン、2019）、「札幌国際芸術祭2017」（札幌市内、2017）、「オープン・スペース2016メディア・コンシャス」（ICC、東京、2016）。主なパフォーマンスに「サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2018」（愛知県芸術劇場、2018）、「FESTIVAL DE ARTE SONORO TSONAMI」（Teatro del Parque Cultural de Valparaíso、バルパライソ、2018）、「FINALBY（）」（w/€Y⇒, COSMIC LAB新美太基+堀尾寛太、フジロックフェスティバル、2021）など。

〈展示〉

会場：丹羽家住宅

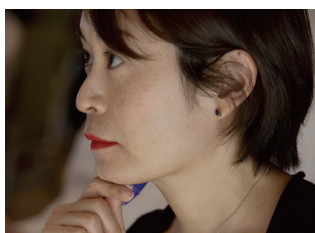
〈パフォーマンス〉

日時：11月20日（土） 15:00～15:30

会場：名古屋能楽堂会議室

スペシャルトーク

◆名古屋城エリア (名古屋能楽堂・四間道)



©TAIFUN



《Trio A Facing》Photo by Kai Maetani

中島那奈子

ダンス研究者、ダンスドラマトウルク。大学で教鞭をとりながら、ダンス創作を支えるドラマトウルクとして国内外で活躍。2017年北米ドラマトウルク協会エリオットヘイズ賞特別賞受賞。老いと踊りの研究を並行して進め、研究と実践を組み合わせる近年のプロジェクトに「イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマティブ・エクシビジョン」(京都芸術劇場春秋座、2017)、老いた革命バレエダンサーの作品『When my cue comes, call me, and I will answer』(演出・振付:メンファン・ワン、北京中間劇場、2019)など。2020年にベルリン自由大学ヴァレスカ・ゲルト記念招聘教授に着任し『ダンスアーカイブボックスベルリン』を上演。今年ダンスドラマトウルギーの情報サイト (<http://www.dancedramaturgy.org>) を開設。編著に『The Aging Body in Dance: A Cross-cultural Perspective』(共編:Gabriele Brandstetter、Routledge、2017)、『老いと踊り』(共編:外山紀久子、勁草書房、2019)。

名古屋能楽堂スペシャルトーク

「能から Trio A へ」

レクチャー + パフォーマンス鼎談

日時: 11月17日(水) 19:00~20:15

会場: 名古屋能楽堂

〈レクチャー〉

中島那奈子

〈パフォーマンス〉

高林白牛口二(喜多流能楽師)

寺田みさこ(コンテンポラリーダンス)

リレートーク

リレートーク「注ぐ／注がれる」

日時: 11月20日(土)

①16:00~17:00 / ②17:15~18:15

会場: 名古屋能楽堂会議室

〈リレートーク①〉

上芝智裕(softpad) × 秋庭史典(本展ディレクター)

〈リレートーク②〉

水野勝仁(インターフェイス/メディアアート研究者) × 伏木啓(本展ディレクター)

連携イベント

今回ストリーミング・ヘリテージと同時期に開催する、ほかの名古屋市内のイベントとも連携しております。名古屋の魅力が詰まっているイベントです。ぜひご来場ください。



Nishiki-2
SDGs
映画祭
SDGs Film Festival
in Nishiki-2, NAGOYA



錦2丁目
SDGs
WEEKS
in Nishiki-2, Echima,
Naka Ward, NAGOYA



やっとかめ文化祭
藝どころ・旅どころ・なごや

SNSも随時更新中!

最新情報はこちらからもチェックできます。



Webサイト



Instagram



Twitter

- 11/14(日)SDGs 連携イベント アップサイクルワークショップ+トークイベント(長者町コットンビル)

新型コロナウイルス感染症対策に関して

新型コロナウイルス感染症への対策を講じた上で実施いたします。ご来場に際しては、以下の点にご留意くださいますよう、お願い申し上げます。

- ・屋内や屋外のパフォーマンス・展示などに関わらず、ご来場の皆様にはマスクの着用をお願いします。
- ・手洗いと手指消毒、咳エチケットへのご配慮、社会的距離の確保にご協力をお願いします。
- ・各会場では検温を行います。37.5℃以上の発熱があると認められた際は、ご入場をお断りさせていただきます。
- ・新型コロナウイルスの感染が認められた場合のご連絡や調査のため、会場にてご連絡先のご記入にご協力ください。
- ・混雑や人の密集を避けるため、各会場ごとに人数制限を設けています。混雑時には、お待ちいただく場合がございます。

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期や実施内容等が変更となる場合があります。最新の情報は公式webサイトやSNSをご確認ください。

お問い合わせ: なごや日本博事業実行委員会事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目11-24 長者町コットンビル2A

TEL: 052-232-7260

広報に関するお問い合わせ: press@streamingheritage.jp (担当: 江坂、笹田、目黒)



文化庁



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



City of design NAGOYA
Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008



ストリーミング・ヘリテージ広報用画像

広報用参考画像、ポートレートなど画像ご入用の方はpress@streamingheritage.jpまでご連絡ください。

1. 市原えつこ



2. 篠田千明



3. softpad



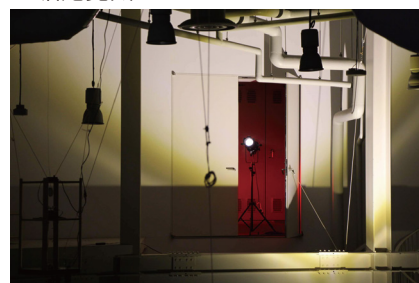
4. 中山晃子



5. フォルマント兄弟



6. 堀尾寛太



7. 中島那奈子



8. ロゴ



1. 市原えつこ《Digital Shaman Project》
2. 篠田千明 ©2019 TPAC. All rights reserved
3. softpad 《between voice and waves》
4. 中山晃子「MUTEK JP 2020」@渋谷ストリームホール Photo: Haruka Akagi
5. フォルマント兄弟（三輪眞弘+佐近田展康）
6. 堀尾寛太《目的の設計》2018年
7. 《Trio A Facing》Photo by Kai Maetani（中島那奈子）
8. streaming heritage 2021 autumn
ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ ロゴ
デザイン：服部一成